

平成29年度内閣府 地震・津波防災訓練 【大阪府泉佐野市】

実施報告書
(概要版)



大阪府泉佐野市について

泉佐野市は、大阪市と和歌山市のほぼ中間に位置し、背後に一部が金剛生駒紀泉国定公園に指定された和泉山脈を擁し、美しい山河、緑あふれる恵まれた自然環境にあります。

商・工・農・漁業がそれぞれバランスよく栄えてきましたが、関西国際空港の開港などに伴う人口の増加とともに、商業・サービス業も盛んになっています。

面積は約56.51平方キロメートル、人口は約101,000人、世帯数は約46,000世帯です。瀬戸内式気候に属するため気候は温暖で、比較的少ない降水量となっています。

市民一人ひとりが様々な災害についての防災意識を高め、災害に対する備えを強化し、安全で安心なまちづくりを推進するため、毎年11月の第1日曜日を「市民防災の日」とし、全市をあげて防災訓練を行っているところです。



地図出典：国土地理院

訓練概要

■訓練想定：午前9時に、南海トラフを震源とするM9.1の大規模な地震が発生し、泉佐野市では最大で震度6弱の大きな揺れを観測し、81分後に最大津波高3.8mの津波が押し寄せるとともに、各所で停電・断水・電話不通の状況が発生する想定の下で、訓練を開始した。

■実施日時：平成29年11月5日（日）09:00～12:00

シェイクアウト訓練	09:00～09:03
安否確認訓練	09:03～09:30
地震・津波避難訓練	09:03～09:30
要支援者避難訓練	09:03～09:30
避難所開設・運営訓練	09:30～12:00

■主催：内閣府、泉佐野市

■参加者数：約4,300名

■参加機関：警察、消防、自主防災組織、町会自治会、社会福祉協議会等

当日の訓練内容

09:00～09:03 シェイクアウト訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取組に重点を置き、訓練参加者全員が、防災行政無線による緊急地震速報を合図に、それぞれの場所で一斉に安全確保「まず低く、頭を守り、動かない」を行った。

▼シェイクアウト訓練



09:03～09:30 安否確認訓練

家の住民が無事であることを示すために、地震が収まった後に、外からでも一目でわかるように、玄関や門扉などにタオルを結び付けて避難を行った。

▼安否確認用タオル



09:03～09:30 地震・津波避難訓練

防災行政無線による避難指示の一斉放送を合図に、市全域の住民は、示された避難場所に速やかに避難を開始した。

避難にあたっては、車椅子やリアカーを活用した要支援者に対する避難訓練も行った。

▼避難の様子



▼要支援者避難



09:30～12:00 避難所開設・運営訓練

78町会が市内31箇所に避難所を開設し、運営を行った。

小・中学生が避難所運営の各班に配置されて、大人と一緒になって避難所の開設・運営に当たり、防災意識の高揚を図った。

▼避難所受付



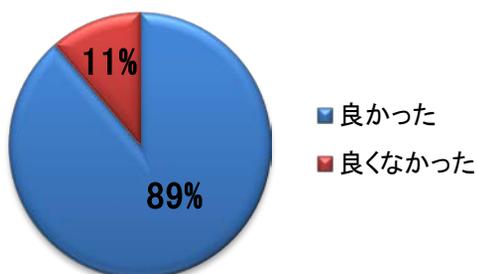
▼避難所運営本部



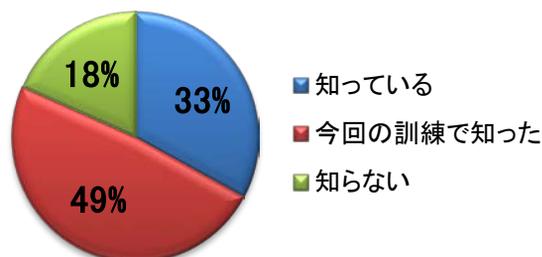
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：168人）

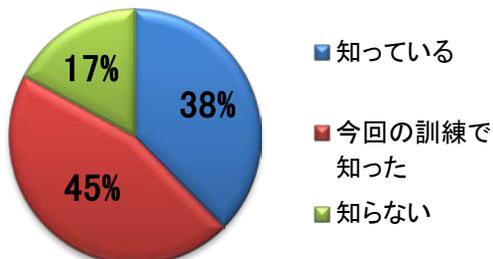
問 地震・津波防災訓練に参加してどう
思いましたか？（回答数142人）



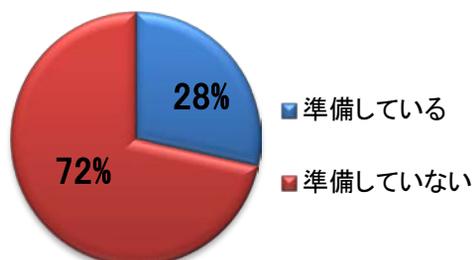
問 11月5日が「津波防災の日」であることを
知っていますか？（回答数158人）



問 ご自宅からの津波避難経路を
知っていますか？（回答数：152人）



問 地震等に備えて、非常用持出し袋等
を準備していますか？（回答数：155人）



訓練の評価

全市挙げての地震・津波避難訓練で、78町会、約4,300名の参加があり、市民の訓練の重要性の理解と、防災意識の高さが分かる。これは、これまで行政と市民が連携して進めてきた防災対策の効果の表れと言える。

地域住民のアンケート結果から、「防災訓練に参加してよかった」、「避難経路を確認できた」、「平素から準備しておくべきことが分かった」という評価の一方で、次のような提言や指摘が出された。

- 防災を考える力を育てるため、学校、自治会、市が協力しあい、勉強する機会を作る必要がある。
- 常日頃から防災意識を高めるため、住民とのコミュニケーションが必要である。
- 訓練を継続して、一人でも多くの人に参加してもらう必要がある。
- 消防団以外の他の機関との連携の方法について検討する必要がある。
- 市と自主防災組織等が連携を強化して、継続的に訓練すべき。
- 安否確認タオルの更なる周知徹底が必要である。
- 場所によっては、防災無線の放送が聞こえ難かったため、ハード面の整備を検討する必要がある。